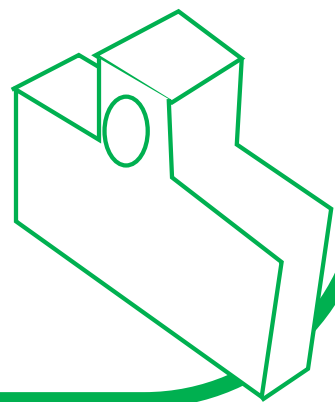
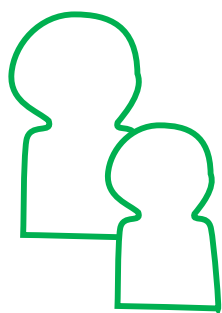
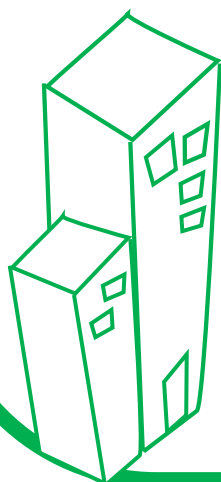


／岡山市発／  
協働で社会をよくする仕組み、紹介マガジン

# 協働 通信

Vol.4 2019.12

- 協働の担い手(第二弾)
- 複数の主体による協働
- 市役所の協働事例



その課題を  
解決する

# 協働の担い手は？（第二弾）

社会貢献活動に関わる主体は行政やNPO法人、ボランティアだけではありません。企業や住民自治組織、大学も社会課題の解決や持続可能な社会づくりに貢献する大切な組織のひとつです。

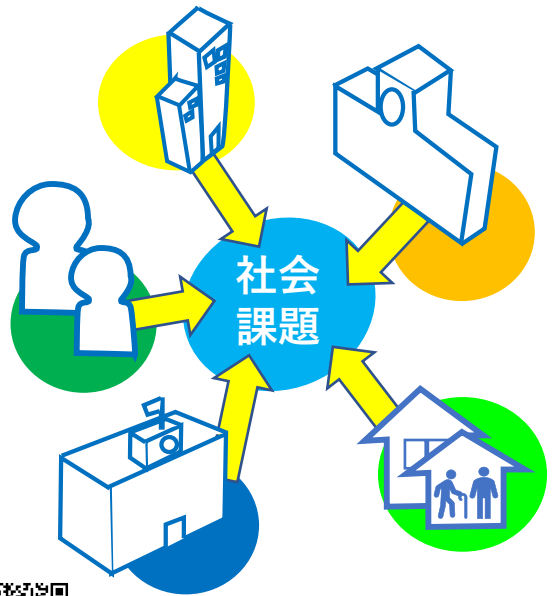
特徴の異なるさまざまな組織が課題解決に向けた取組を進めていますが、互いの組織の得意分野を生かし合う「協働」により各取組はいっそう効果的なものとなります。

協働のパートナーを考えるときに重要なのは、相手の組織がもっている資源や得意分野を知ることです。

前号では行政とNPOの協働における強みを紹介しました。今号では、企業・住民自治組織・大学等について、協働における強みと各組織との取組を紹介します。

前号はこちらから見るができます。

→ <http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/13648>



## ～協働の原則を知っていますか？～

岡山市では、多様な主体が協働して地域の社会課題解決の取組を行うにあたり、「岡山市協働のまちづくり条例」第4条に以下5つの基本原則を掲げています。

### 相互理解の原則

相手の立場を尊重し、相手との違いを認め、互いに理解し合うこと。

### 目的共有の原則

解決すべき課題が何か等、協働する目的を明確にし、共有すること。

### 対等の原則

相互の役割分担について、合意により決定し、活動の場において対等な協力関係を形成すること。

### 自主性及び 自立性尊重の原則

互いに依存することなく、不当に干渉することなく、自主性及び自立性を尊重して行動すること。

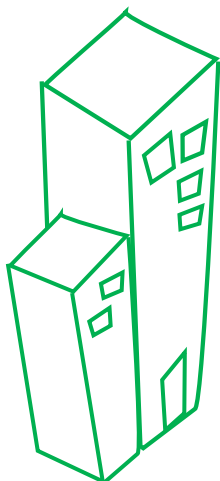
### 公開の原則

常に相互の関係及び協働の内容を明らかにし、透明性を確保すること。

協働の原則を意識して取組を進めることでより確かな協働の成果につながります。



# 企業の強み ～地域とともに成長の土壌を育てる～



企業(株式会社など)による活動は、利益の追求を目的としながらも社会のニーズを満たし、得た利益が従業員の給与になるなど、社会を支える基盤となるものです。

持続可能な社会を目指すために、企業が所在地に関わり、地域の課題解決のために各社の資源を活用することや適切な消費活動を行うことなどが求められています。社会を支える基盤であるからこそ、企業の社会貢献・地域貢献活動への期待はますます高まっています。

協働における企業の役割として、以下の視点からの助言や技術提供が考えられます。

- ①収益性の向上（持続性の担保）
- ②効率の向上（システム化）
- ③専門性の向上（人材育成や環境整備など）

社会貢献活動に取り組む企業の事例はつながる協働ひろば「いきいき社会貢献」から見るができます。  
←←こちら



## 就労を考える ひとり親×企業

～ 課題解決ワークショップ [企業] ～

ひとり親の就労支援や積極的な雇用をしている企業、ひとり親家庭支援を行うNPOはありますが、就労したいひとり親や企業の本音を聞く機会はなかなか得られません。

就労するひとり親、ひとり親を雇用する企業、支援する行政やNPOなどの取組を、より実態に沿った充実したものにするきっかけとして、それぞれの立場から意見交換しました。



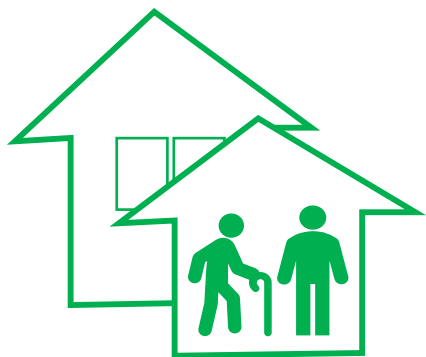
ワークショップでは、ひとり親の就労に関する理想的な姿について出し合い、理想に対して現実はどうであるか、理想に向かうことを難しくしている原因は何かなどを話し合いました。

事例報告では、ひとり親の支援に携わる企業・行政・NPOから取組の紹介や、それぞれの立場でひとり親の現状などを報告していただきました。

企業・行政・NPOなど組織のありかたに違いがあってもそれぞれの特徴を活かしながらさまざまな支援が行われていることを共有できる時間となりました。



# 住民自治組織の強み ～自治の回復を担う～



住民自治組織の強みには、  
以下のようなものがあります。

- ①意思決定や実行の当事者であること
- ②地域の現状を知っていること
- ③地域の歴史を知っていること
- ④ネットワーク(情報伝達や動員など)

地域課題が複雑化するなかで、地域特有の課題を解決する主体として注目されているのが町内会などの住民自治組織です。

NPOがテーマに基づいて活動するのに対し、住民自治組織は自分たちの住むエリア(地域)を中心に活動します。

活動の分野はさまざまです。例えば、災害発生時に支え合える仕組みをつくる活動、地域の資産を守り発信することで地域活性化につなげる活動など、どの活動も住み続けたい地域づくりに役立っています。

住民自治組織による取組事例は  
つながる協働ひろば「地域の協働」  
から見るができます。

こちら→



## 区づくり推進事業 —令和元年度の取組紹介

区民が主体的に協働し、地域課題を解決するために活動することで持続可能で暮らしやすい地域づくり、区のまちづくりを推進する制度です。

### 「第三藤田小学校区自主防災協議会」

第三藤田学区は干拓地で海拔0mの地域であるため、大規模地震の際には大きな被害の発生が想定されています。

単位町内会別に防災リーダーを育成し、災害時の自助・共助体制を強化することで地域住民の防災意識の向上を図っています。

#### <地域との協働 企業・小学校>

防災訓練の際に地元企業の協力により、企業保有の災害時救命ボートを小学校のプールで使用する体験を行ったほか、小学校の体育館で避難時の宿泊体験を行うなど、実践的な取組をしています。



### 「御津獅子舞継承活動事業」

御津獅子舞継承活動実行委員会では、御津地区の文化遺産である獅子舞を維持・保存継承することで地域の結びつきを強め、地域活性化を図っています。



#### <地域との協働 中学校・公民館>

数年前から御津中学校の土曜日カルチャースクールで獅子舞体験の授業を行っています。地元の中学生在が地元の文化を体験する機会となっています。

御津公民館祭り・獅子舞フェスタは、準備から当日の運営まで、実行委員会と公民館が一体となって取り組みます。地元の中学生も演舞に参加しています。

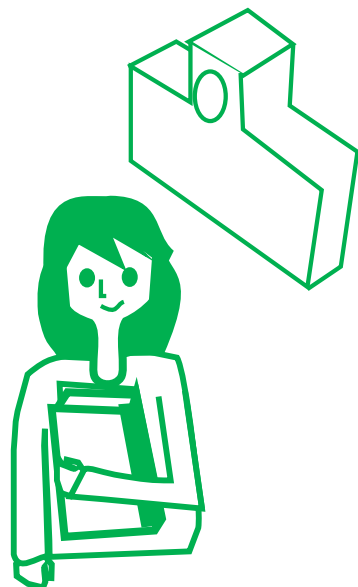


# 大学等の地域における強み ～人を育て、知を活かす～

大学等の教育機関は、所在地域におけるシンクタンク機能、社会を担う人材創出などの役割を担っています。特に大学では、研究フィールドとして、地域との関係性が深いこと、地域の経済活動に寄与するなど、地域における社会的・経済的・文化的なつながりが深いことが特徴です。

- ①専門性の高い情報・技術の提供
- ②若者の意欲・発想・活力の提供
- ③新しい技術などの構築と提案

強みとしては左記のようなものがあります。



## OKAYAMA SOCIAL TALK MEETING for Youth

～課題共有ワークショップ[若者]×ESD学生インターンシップ報告会～



大学生や若手社会人を対象に、地域課題やESDについて知り、自身がこれからできることを考えるワークショップを開催しました。

岡山ESD推進協議会が実施しているESD学生インターンシップに参加した学生が、公民館やNPOへの訪問期間に取り組んだ内容やプログラムを通じて学んだこと、これから自身が取り組みたいことなどを報告しました。

学生の報告について、参加した公民館職員やNPO団体スタッフからコメントをもらいながら、参加者一同で岡山の地域課題や課題解決に向けた取組に対する理解を深めました。最後に、持続可能な地域社会づくりに貢献するために参加者ひとりひとりがこれから取り組みたいことを書き出し、その思いをみんなで共有しました。

大学生や若手社会人も、持続可能な社会づくりの担い手です。若い世代が課題意識を持ち、行動するきっかけとなる場づくりに取り組んでいます。



# 複数の主体による協働

## 多様化・複雑化する社会課題への対応



社会課題には、課題の要因が複雑多様で、当事者の置かれている状況が複雑である場合も少なくありません。こうしたケースでは、例えばNPOと行政の二者による協働のアプローチのみでは課題の解消・改善が難しいもしくは時間がかかることも考えられます。

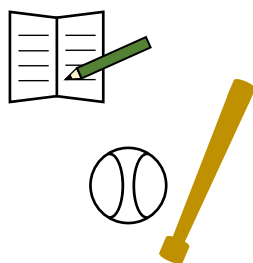
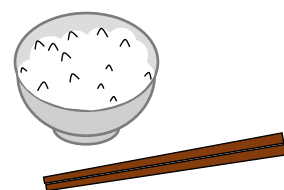
複雑な社会課題に対応するためには、複数の担い手による協働が効果的といえます。異なる専門性をもつ複数の主体の参画を促したり、行政の部署も複数課にまたがる場合も考えられます。大学等の高度な専門性が活かることや、地域住民によるサポートが重要な場面も考えられるでしょう。

「子どもの孤食」という課題を例に検討してみます。

さまざまな事情で孤食状態にある子どもの支援として、「子ども食堂」が注目されています。子ども食堂では、NPOや地域住民による運営、行政の運営資金の一部補助や市有施設での実施の支援などの協働がみられる場合もあります。

孤食という状態を改善するために、子ども食堂は有効な手段のひとつと言えます。しかし、運営者と共にご飯を食べるだけでは問題の根本的な解決には至りません。

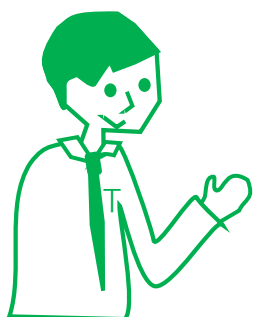
地域住民との確かなつながりづくりや、子どもに対する基礎学力の定着などの学習支援、親の抱える課題を聞き取り子ども食堂以外の支援先につなぐ力などが必要です。



問題の根本的な解決には、異なる専門性を持つ複数の主体の関与が必要です。

例えば、子ども食堂の運営主体や運営を支援する行政に加えて、学習支援をする大学や学生ボランティア、地域活動との連携、栄養や健康に関する知識を提供する企業など、複数の主体による協働のかたちが考えられます。

このように、多様で複雑な課題に対応するために、複数の担い手による協働は有効な手段のひとつといえます。



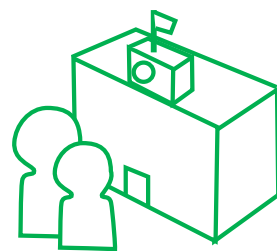
多くの人が多様な取組をしているからこそ互いの取組を知り、手を取り合って一緒に課題解決に向かっていくことが大切です。複数の担い手による協働は、今後ますます広がっていくことでしょう。

# 市役所の協働事例

## 「関係課ヒアリング」と優れた協働事業の紹介

岡山市では、市民協働推進モデル事業やおかやま協働のまちづくり賞の取組の他にも多くの協働が実践されています。

市民協働企画総務課とESD・市民協働推進センターでは、約60の関係各課の協働推進員や事業担当者を対象に、協働の取組に関するヒアリングを行いました。



<ヒアリングの目的>

- ①優れた協働のモデルを発掘して発信する
- ②課題解決ワークショップのテーマとなる協働の「種」を見つける
- ③協働の効果を高めるための具体的なアドバイスを行う

ヒアリングを通じて発掘された協働事業の一部を紹介します。

○部署名：岡山市立図書館

○協働先：市内NPO

○事業名：NPO等と連携した岡山市立図書館での巡回展示

○事業概要：

図書館展示を活用して利用者に社会課題、地域課題の理解を促進するとともに、関連書籍の貸出や図書館利用の活性化を図る。展示資料についてESD・市民協働推進センターと協議し、適時的かつ身近な事業・団体を選定し、市内NPOへの支援や活動参加のきっかけを生むこともねらいとしている。

○ポイント：

資料展示ができるNPOにとっては理解者・支援者の拡大につながり、行政・NPOともにメリットがある取組です。大きな予算は不要な協働の好事例といえます。

○部署名：岡山シティミュージアム

○協働先：おかやま市民学芸員の会

○事業名：市民学芸員制度

○事業概要：

岡山シティミュージアムで行われる岡山に関する展示、講座、機関紙執筆などをボランティアの市民学芸員が担う。専門性や意欲の高い市民学芸員が、地域とミュージアムのかけはしとなって力を発揮している。

○ポイント：

歴史が好き、展示に関わりたいなどの思いを持っていることを参加条件としており、市民の経験や意欲が行政サービスの品質向上に生かされた事例の一つです。職員とボランティアで役割分担のうえ、相互にバランスや関係性を意識しながら継続する取組となることを期待しています。

○部署名：女性が輝くまちづくり推進課

○協働先：さんかくウイーク実行委員会  
(公募市民)

○事業名：さんかくウイーク実施事業

○事業概要：

6月の「さんかくウイーク」を中心に毎年男女共同参画社会の形成促進を図る様々な行事が行われている。市民や市職員で構成される「さんかくウイーク実行委員会」がイベントの企画・運営などを担う。

○ポイント：

実行委員の固定化が課題になっていたが、活性化を図るため積極的に若者の参加を募り、現在では約半数を大学生が占めることもあるそうです。大学の先生に行事の趣旨や参加のメリットを理解してもらうなど、若者が参加しやすい雰囲気づくりに努められていることが大きな要因と思われます。

○部署名：中区役所総務・地域振興課

○協働先：山陽学園大学・短期大学

○事業名：中区まちづくり独自企画事業  
"健康チェック"

○事業概要：

市と大学が連携して区内5カ所の公民館で高齢者を対象とした健康チェックを実施。中区役所は機材、場所の確保と広報を担い、大学は健康チェックと栄養相談を担う。

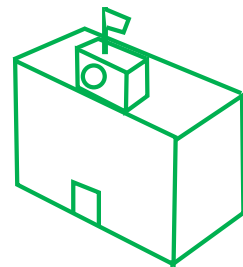
○ポイント：

看護師等を志す学生の地域医療に対する関心や意欲の向上、参加した高齢者の「結果説明」や「スタッフの対応」に対する非常に高い満足度、健康への関心の向上などがアンケート結果からみられ、学生と住民の双方に良い影響が生まれたことがわかります。それぞれが有する資源をうまく組み合わせさせて実施された協働事業といえます。





ESD・市民協働推進センターは「協働を推進するためのコーディネート機関」です。人材育成、情報共有および交流機会の創出、社会課題解決のための取組の推進などを担います。



ー平成31年度岡山市市民協働推進モデル事業からご紹介ー

## 西川エリアの魅力向上のための、エリアマネジメント組織づくり

～既存団体の連携推進と、継続した取り組みを行うための企業や岡山市とのタスクフォースづくり～

西川エリアまち育て協議体は今年度、2年目となる市民協働推進モデル事業に取り組んでいます。今年度はいっそう地域に寄り添った活動を目指し、西川エリアの連合町内会との確かなつながりをつくるなど、地域に根差した活動を実施しています。



8月には「グリーン大作戦 西川クリーン探検DAY」、9月には「グリーン大作戦 落書き消し」を行いました。西川クリーン探検DAYでは、西川の清掃をしながら西川の生きものについて学びました。落書き消しでは、西川エリアを住み良く価値ある地域にしたいと熱意を持った有志が集まり、店舗シャッターの落書き消しに挑戦しました。

2年間のモデル事業の間に西川エリアの多くの関係者をつながり築き、時には地域の交番の方ともお話をしながら西川エリアのまちづくりに取り組んできました。

地域住民も事業者も観光客も、地域を訪れるみんなが気持ちよく過ごせるまちづくりを進める「西川エリアまち育て協議体」の活躍に期待しています。



### ★参加者募集中★

#### ◇地域協働フォーラム

日程：令和2年1月19日(日)

場所：勤労者福祉センター(岡山市北区春日町5-6)

#### ◇おかやま協働のまちづくり賞表彰式

&SDGsフォーラムin岡山2020

日程：令和2年2月23日(日)

場所：岡山大学創立五十周年記念館ほか

(岡山市北区津島中一丁目1-1)

#### ◇地域活動リーダー養成講座

日程：令和2年3月3日(火)

場所：西川アイフラザ(岡山市北区幸町10-16)

※お問合せはESD・市民協働推進センターへ！

発行・問合せ：ESD・市民協働推進センター

岡山市北区大供一丁目1番1号 岡山市役所2階 市民協働企画総務課内

TEL：086-803-1062 / 070-5055-7589

E-mail：esd-smc@googlegroups.com

最新情報は「つながる協働ひろば」で検索！

